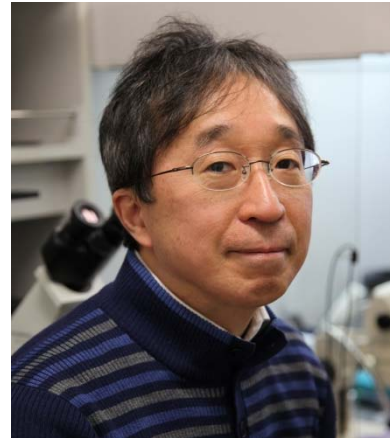


大学院特別講義のお知らせ

「腸管神経系の発生と病理の分子機構」

講師：榎本 秀樹 教授
神戸大学大学院医学研究科
神経分化・再生分野



日時：平成29年3月22日（水）
17:00～18:30

場所：藤井節郎記念医科学センター
多目的室（2階）

腸管神経系は末梢神経系で最大の神経系であり、腸管壁全長にわたって網目状の神経ネットワークとして存在し、生命維持に不可欠な腸管運動・分泌・血流を制御する。その発生は、神経堤細胞に由来する神経前駆細胞が、胎児腸管壁内を移動・増殖しながら腸管全長を覆うことを基盤とし、長期にわたる神経形成によりマウスで数十万、ヒトでは数億にもおよぶ神経細胞が産み出される。この発生過程に何らかの障害が起こると、腸管末端で神経細胞を欠損または減少する病態が生じ、ヒトではヒルシュスプルング病として知られている。

我々の研究室では、マウスをモデル生物に用い、腸管神経系の発生とヒルシュスプルング病誘導の分子機構解明を目的に研究を行っている。この問題解明には、神経堤細胞に内包される「高い遊走能」と「分化能」がどのように腸管神経発生過程で発動されるかの理解が不可欠である。本セミナーでは、我々が独自に構築したライブセルイメージングシステムと遺伝学的細胞標識法により明らかになった「神経堤細胞の予想外の振る舞い」について紹介する。さらに、この発見が、ヒルシュスプルング病をはじめとする神経堤細胞の機能不全に起因する病態誘導機構にどのように関与するか、我々の仮説を提示する。

- ◆本講義は、**クラスターコアセミナー**を兼ねています。
教員・大学院生・学部学生など、全ての方のご来聴を歓迎いたします。

お問合せ先：細胞生物学分野（内2211）
医学部学務課第一教務係（内9649）